

中高生を対象とした医師の職業体験実習

とき 令和5年8月6日(日) 10:00～12:30

ところ 宇部興産ビル4階

[報告:理事 白澤 文吾]

医療職への理解を深めるとともに、その魅力を体験して、将来、県内で活躍してくれる医師を養成することを目的に本事業を開催しており、今回で5回目となる。

県内の中学校、高等学校に開催の案内を行ったところ、69名の応募があり、定員(40名)を大きく上回ったため、厳正な抽選を行い、50名に参加していただくこととした。結果として、中学生27名、高校生19名の合計46名が参加した。

なお、県内の新型コロナウイルス感染症の報告数が増加傾向にあったため、参加者にはマスク着用と手指消毒を徹底して、開催した。

当日は、山口リハビリテーション病院の清水良一先生、山口大学医学部の桂准教授、久永講師、竹内助教、済生会下関総合病院の溝口先生、山口大学医学部6年生の学生12名に協力いただいた。また、本会からは茶川常任理事、藤井理事、岡理事と私が参加した。

はじめに清水良一先生から、救急蘇生の実技に繋がる内容で、生命を維持するためのエネルギー代謝について講義をしていただき、その後、参加者は5つのグループに分かれて、採血、心肺蘇生、血圧測定、縫合・結紮をそれぞれ体験した。なお、今回は参加者の増加に対応するため、「医学生へ何でも聞いてみよう! (医学生への質問と山口大学病院紹介のコーナー)」というブースを増やし、現役の医学生と中高生が直接、いろいろな話ができるようにした。

最後に、私から山口大学医学部の入試制度やカリキュラム、山口県の地域医療の現状等について話をした。

今回の体験を通じて参加した中高生が、一人でも多く医師やコメディカルとなり、山口県内で従事されることを願うばかりである。

参加者の感想(抜粋)

面白かったこと、勉強になったこと

- ・体験コーナーの内容がとても面白かった。(5)
- ・実際に体験コーナーでいろいろなことを試みて、現場でどんなことがされているのかを知ることができ、職業選択の良い材料になった。(2)
- ・体験コーナーで普段、使うことができない器具や、やらないことをして、とても勉強になり、印象に残った。(2)
- ・医療は理論的になっており、すべての方法に意味があるのだと思った。
- ・実際に行った実技で、コツ、ポイント、裏ワザなど教えてもらって、勉強になった。
- ・一番初めの講義でATPのことを詳しく知ることができ、楽しかった。学校の授業では聞けない話ばかりで、もっとこのような話を聞きたいと思った。
- ・ATPは30秒～1分30秒くらいで交換しなければならないということがとても勉強になった。(2)
- ・縫合の時、熱心に教えてもらい、とても理解でき、面白かった。(5)
- ・縫合・結紮や採血を体験し、まるで自分が医師みたいだと思った。
- ・初めて結紮をしたことが一番、印象的だった。普段体験することのできない医療行為をして、難しさを知った。
- ・縫合の時、はさみをスムーズに開くことができなかつたが、上手に縫合することができてよかった。
- ・縫合・結紮の所作1つ1つに合理的な理由があることが面白かった。
- ・心肺蘇生時、周囲を確認することの大切さがよく分かった。(2)

- ・心肺蘇生が一番役に立つと思ったので、復習しておきたい。(3)
- ・心肺蘇生の流れを実際に体験できたことが勉強になった。(5)
- ・心肺蘇生を高齢者にすると、肋骨が折れてしまうが、逆に折れてないとしっかり心肺蘇生ができてなかったことになることが勉強になった。
- ・採血を実際に体験できたことがとても面白かった。(2)
- ・採血がとても難しかったが、「こうしたらいいよ」と教えてくださり、理解できた。
- ・採血の時、少し刺す角度が違うとうまく刺さらないことを意識することが大事だと分かった。
- ・採血の準備をするのが楽しかった。
- ・医学生の話がとても面白かった。また、分かりやすく説明してもらえた。(2)
- ・医学生に数学を克服する方法を覚えてもらったので、やってみようと思う。
- ・医学生に教えてもらった面接のコツ等が勉強になった。
- ・医学生と直接お話しできて、今後の勉強に取り組む姿勢や入学後について、とても勉強になった。
- ・医学生の方のお話を聞き、今までよりも将来のビジョンを明確にすることができた。
- ・医学生の方がとても優しく教えてくださり、緊張がとけた。
- ・血圧測定時に聴診器を用いた方法だったこと。デジタル化の時代であえて聴診器を用いるのは

- 面白かった。
- ・女性医師の活動率が低いことに驚いた。山口県に貢献できるような医師になりたい。
- ・今の医療の現状について知ることができ、勉強になった。(4)
- ・地域医療の現況が大変なことを知った。

難しかったこと、あまり理解できなかったこと

- ・最初の講義が難しかった。(6)
- ・体の代謝の仕組みが複雑で難しかった。(6)
- ・ATP、ADPの話が少し難しかった。(2)
- ・縫合・結紮が難しかった。(4)
- ・縫合・結紮の時、針を使うのが難しかった。(3)
- ・縫合・結紮で、針を入れるときに90°を意識して入れることが難しかった。
- ・縫合・結紮が難しかったが、あこがれていた部分もあり、うれしかった。
- ・血圧測定が難しかった。(2)
- ・血圧測定で音が聴こえなかった。(2)
- ・血圧測定は片手で作業するのが難しかった。
- ・血圧測定などの専門的なことがあまり理解することができなかった。
- ・心肺蘇生の手順が複雑で難しかった。
- ・心肺蘇生の時、うまく肺に空気を入れることができなかった。(2)
- ・心肺蘇生はたくさんすることがあって大変だった。
- ・心肺蘇生の心臓マッサージで強く押すことが難しかった。



最初の講義



採血

- ・採血が難しかった。(2)
- ・採血で駆血帯を巻くのが難しかった。
- ・採血の時、上手く針が入らなかったのが難しかったが、分からないところも丁寧に教えてくれたので、理解しやすかった。
- ・大学受験の前期、後期、推薦枠などについてが難しかった。

その他

- ・とても良い経験になった。(3)
- ・体験や講義を受けることができ楽しかった。(3)
- ・先生方がとても優しく教えてくれて、貴重な体験ができた。(6)
- ・もう少し時間があればよかった。(2)
- ・また機会があれば参加したい。(2)

- ・医学部生が話しやすく、さまざまなことを知ることができてよかった。(2)
- ・勉強、がんばりたい。
- ・実際に体験することで得られた知識が多々あり、とても有意義な時間だった。
- ・時間が少なかったため、採血ができなかったことが残念だった。
- ・山口県で医者として働きたい気持ちがより一層強くなった。
- ・「医学生へ何でも聞いてみよう！」のコーナーで、よくある質問などに答えてほしい。
- ・医療についての関心が深まった。
- ・教え方がとても上手で分かりやすかった。
- ・早く終わった時に、質問に答えてくれて、いろいろなことがよく分かった。



心肺蘇生



血圧測定



縫合・結紮



医学生へ何でも聞いてみよう！